



PROFILE
山田恵里

1984年生まれ、神奈川県出身。小学1年の時に兄がいた野球チームに入り、中学校では男子野球部に所属。不動の1番バッターとして活躍した。高校でソフトボールに転向し、実業団1年目で数々のリーグ記録を打ち立て、オリビック代表入りを果たす。アテネ大会で銅メダル、北京大会と東京大会で金メダルを獲得。オリビック北京大会では、アメリカとの決勝戦でホームランを放ち、チームの士気を高めた。

デンソープライテペガサス
<https://brightpegasus.denso.com/>

元ソフトボール日本代表 山田恵里

【巻頭特集】第一線を走り続け次のステージへ

今シーズンをもって
選手生活に区切りをつけた
デンソープライテペガサス所属の山田恵里選手。
「21年間、悔いなくできた」という
ソフトボールについて、聞きました。



「デンソープライテペガサスは明るい選手が多く、勢いに乗ったらどこまでも突き進むようなチームです。応援ができるという感謝の気持ちを持ってプレーしています」と山田選手

ソニーピックが銅メダルだったので、次は絶対に金メダルという目標を掲げて突き進みました」

2008年の北京大会以降、ソフトボールがオリビック種目から除外され、燃え尽き症候群になつた時期もありました。自分の力を試したいという思いと、モチベーションを維持するため、アメリカ女子プロソ

フトボールリーグに参戦。そこで価値観が変わったと話します。

「アメリカは切り替えがとても早く、よくないことを引きずりません。自分に対してストイックに、結果を残すため必死にやるところも勉強になりました。日本の細やかなプレーと、アメリカ流の考え方やパワーが一緒になれば、もっと強くなれると思いました」。

ソニーピックが銅メダルだったので、次は絶対に金メダルという目標を掲げて突き進みました」

2001年からはデンソープライ



上) デンソープライテペガサススタジアムで行われたニトリJD. LEAGUE 2022の試合終了後、Most Wow! Playerインタビューに応え、観客席に向けて大きく手を振る一コマ。(下2枚) ソフトボールの普及はもちろん、これまでの経験を伝え、誰かが一步踏み出す勇気につながればというが、山田選手の目指すところ

のシーズンをもって引退を決めた山田選手。引退会見では、日本代表で共に戦った上野由岐子選手からサプライズで花束を贈られ、涙ぐむ姿。「人前で泣かないようにしていましたが、実は涙もろいタイプ。ドラマなどを観てもすぐ泣いちやうんです」と、意外な一面を覗かせます。

11月にプレーオフを終え、今の心境について聞くと、「決勝の手前で負けてしまつたのは残念でした。私自身が結果を出せずチームを優勝へ導けなかつたという気持ちもあり、38歳ですが、何かを始めるのに早い遅いはないので、新たに挑戦する姿勢も安定を保っていました」とのこと。

第一線で活躍するためのルートインからの解放感が、今は大きいと言います。

次のステージへ向け、「ソフトボールしかしてこなつたので、いろいろなことを勉強し挑戦したいです。38歳ですが、何かを始めるのに早い遅いはないので、新たに挑戦する姿勢も安定を保っていました」と熱く語ってくれました。

「デンソーに移籍し、素晴らしい環境のなかでソフトボールができることは感謝しかありません。これからもデンソープライテペガサスは続いていると思いますので、今まで以上に応援してください。デンソープライテペガサスも応援してくださいのみなさんに『観に来てよかつた』と思つていただける試合をしたいと常に考えています。お互いがいい影響を与え合えるような関係であり続けたいで

す」。

これまで朝4時半に起床し、体幹トレーニング、素振り、バッティング、ウェイトトレーニングをしてから、全体練習に臨むのが日課だった山田選手。「同じことをすると、自分の状態やバッティングの感覚が見えてくるので、気持ち的にも技術的にも安定を保つていました」と語ります。

「すぐ結果を出さないと日本代表に呼ばれないので、必死でした」と山田選手。実業団1年目の冬に日本記録を塗り替えました。

卒業後は実業団チームへ。ルーキーイヤーの2002年に数々のリーグ戦で首位打者を獲得した山田恵里選手。リーグ戦では首位打者やベストナインに何度も選ばれ、ソフトボール界の「イチロー」と呼ばれる存在です。

ソフトボールを始めたのは、高校に入つてから。小学校から男の子に混じつて、野球を続けていた山田選手。高校では女子は公式戦に出られず。高校では最初のオリ

オリンピックを目指して邁進自分もあるの場所に立ちたい!

ソニーピック日本代表のキャプテンとしてチームを引っ張り、オリンピック北京大会と東京大会の金メダル獲得に貢献した山田恵里選手。リーグ戦では首位打者やベストナインとしてチームを盛り上げてきました。

「ソフトボールは団体競技で、ひとりでは何もできません。自分がうまくいかなかつたら誰かがカバーしてくれるたり、仲間のミスを自分のプレーで取り返したり。お互いを理解し合うところが醍醐味です。応援してくれる方々に結果でお返ししたいと思えるところも魅力だと思います」。

選手として、突き抜けた結果を出たことが難しいと感じ、2022年代表入りを果たし、2004年に開催されたアテネオリンピックでは銅メダル。4年後の北京大会では金メダルを獲得しました。「最初のオリ

オリンピックを目標として邁進自分もあるの場所に立ちたい!

ソニーピック日本代表のキャプテンとしてチームを盛り上げてきました。

「ソフトボールは団体競技で、ひとりでは何もできません。自分がうまくいかなかつたら誰かがカバーしてくれるたり、仲間のミスを自分のプレーで取り返したり。お互いを理解し合うところが醍醐味です。応援してくれる方々に結果でお返ししたいと思えるところも魅力だと思います」。

選手として、突き抜けた結果を出たことが難しいと感じ、2022年

代表入りを果たし、2004年に開催されたアテネオリンピックでは銅メダル。4年後の北京大会では金メダルを獲得しました。「最初のオリ

オリンピックを目標として邁進自分もあるの場所に立ちたい!

ソニーピック日本代表のキャプテンとしてチームを盛り上げてきました。

「ソフトボールは団体競技で、ひとりでは何もできません。自分がうまくいかなかつたら誰かがカバーしてくれるたり、仲間のミスを自分のプレーで取り返したり。お互いを理解し合うところが醍醐味です。応援してくれる方々に結果でお返ししたいと思えるところも魅力だと思います」。

選手として、突き抜けた結果を出たことが難しいと感じ、2022年

代表入りを果たし、2004年に開催されたアテネオリンピックでは銅メダル。4年後の北京大会では金メダルを獲得しました。「最初のオリ

オリンピックを目標として邁進自分もあるの場所に立ちたい!

ソニーピック日本代表のキャプテンとしてチームを盛り上げてきました。

「ソフトボールは団体競技で、ひとりでは何もできません。自分がうまくいかなかつたら誰かがカバーてくれるたり、仲間のミスを自分のプレーで取り返したり。お互いを理解し合うところが醍醐味です。応援してくれる方々に結果でお返ししたいと思えるところも魅力だと思います」。

選手として、突き抜けた結果を出たことが難しいと感じ、2022年

代表入りを果たし、2004年に開催されたアテネオリンピックでは銅メダル。4年後の北京大会では金メダ